

## 子宮頸がん検診について

### ○子宮頸がん検診を受診できない方

- ①生理中の方。（細胞の採取が困難なため、お断りさせていただいています）
- ②最近6ヶ月以内に次のような症状がある方は、医療機関を受診してください。
  - ・不正性器出血（定期の生理以外の出血や閉経後出血）のある方。
  - ・月経異常（過多月経や不規則月経等）のある方。
  - ・褐色帯下（褐色のおりもの）のある方。
- ③妊娠中の可能性のある方、または妊娠中の方。  
（かかりつけの医療機関で受診してください）
- ④子宮がん等で医療機関（婦人科等）において、治療中の方及び経過観察中の方。
- ⑤性交渉の経験のない方。

（子宮頸がん発生の大きな原因となるHPVの感染機会がありませんので、子宮頸がん検診の必要性は低いです。症状等があり受診を希望される方は病医院へのご受診をお勧めいたします）

- ⑥検診当日、体温が37.5度以上、風邪症状が持続している方。

### ○子宮頸がん検診の受診前に必ずかかりつけ医に相談していただきたい方

- ①子宮の手術をされたことがある方。  
（切除部位等により、視診・内診のみの検診になる可能性があります）

### ○子宮頸がん検診の受診の際の注意事項

- ①受診票の記入欄は必ずご自身で記入してください。
- ②閉経後の方は子宮頸部の細胞量が少なくなっており、必要量の細胞が採取できない可能性があります。
- ③検診前日の腔内洗浄は細胞が洗い流されることがありますので、避けてください。  
（入浴はしていただいても差し支えありません）
- ④検診前日の性生活は避けてください。
- ⑤検診当日、体調の悪い方はお控えください。
- ⑥当日は検診前に排尿を済ませてください。
- ⑦検診を受診しやすい、着脱しやすい服、靴で受診してください。
- ⑧この検診では、細胞を採取するため、専用の採取器具（綿棒・ブラシ・ヘラなど）を使用します。そのため、出血や痛みがある場合があります。出血は、おりものに血液が混じる程度で、多くの場合自然に止血しますのでナプキンを当てて様子をご覧ください。  
もし、検診後に出血が増えたり長く続くようであれば、医療機関（産婦人科）を受診してください。
- ⑨何らかの理由により検診車、診察台への昇降が困難な方、担当者の指示通りの体位を維持することが困難な方は検診をご遠慮いただくことがあります。また検診ができて結果が判定不能となる場合があります。  
そのため事前にご心配なことがある場合は必ず検診日までにご相談ください。また検診当日に検診医又は看護師が受診することが困難と判断した場合もご遠慮いただくことがあります。ご了承ください。
- ⑩子宮頸がん検診を受診された後に検尿をされますと、潜血反応が出る場合があります。